

那珂市議会 産業建設常任委員会記録

招集日時 令和6年5月10日（金）午前10時

招集場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 寺門勲 副委員長 小宅清史
委員 大和田和男 委員 笹島猛
委員 遠藤実 委員 福田耕四郎

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 木野広宣 事務局長 会沢義範
次長 秋山雄一郎 次長補佐 三田寺裕臣

会議に付した事件

（1）調査事項について

…道の駅についてに決定

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 皆さん改めまして、おはようございます。

本日は産業建設常任委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先日、議会運営委員会もございまして、冒頭先崎市長がお見えになりました。台湾の台南市との友好交流協定を結んできたという、市長のほうからご挨拶がございました。今後、文化教育、スポーツ等の幅広い面で、お互いの交流を進めていきたいというお話がございました。そういう中で、今後交流をどういった形で進めていくのかを見極めていきたいと思っております。

本日の産業建設常任委員会、よろしくお願ひいたします。

それでは始めさせていただきます。

開会前にご連絡をいたします。

換気のため廊下側のドアを開放して常任委員会を行います。ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

会議は公開しており傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただきマナーモードにご配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名でございます。欠席委員はございません。

定足数に達しておりますので、これより、産業建設常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

ここで議長よりご挨拶をお願いします。

議長 皆さん改めましておはようございます。

先ほど委員長からございましたけども、台南市のほうに議会を代表させていただいて友好交流の協定締結に参加させていただくことができました。ありがとうございました。私も久々に海外に行ったものですから、やっぱり食べるものとか、いろんな部分でやっぱり文化がかなり違うのかなっていうのがありましたけども、ただ市長のほうからも、できれば議会としても今後どのようにしていくかっていう部分もありますので、今後の検討させていただいて友好交流していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

本日は調査事項ということで、産業建設常任委員会がございますので、皆様の慎重な審議を賜りますようお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

どうかよろしくお願ひいたします。

委員長 ありがとうございました。

これより議事に入ります。

調査事項についてを議題といたします。

当委員会で今後調査等を行いたい案件について、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。

各委員のほうから何かございましたら、提案お願いします。

笹島委員 議長に先月、議会運営委員会委員長と交えて、道の駅の特別調査委員会を設けてはどうかという議員発議でっていう話をしたんです。

委員長 暫時休憩いたします。

休憩（午前10時04分）

再開（午前10時16分）

委員長 再開いたします。

それは笹島委員のほうからご説明お願いします。

笹島委員 ペーパーを渡しましたけども、道の駅の特別委員会の設置ということで、委員会条例の第6条に基づいて皆さんに書類を渡したいと思います。

まず趣旨なんですけれども、本年度予算において基本設計が約1億2,387万円、これ計上されました。今度、道の駅の建設費に約26億円かかるというふうに予想されます。今度4車線化があります、これが約40億円から60億円。1キロメートル20億円でちょっと計算してみて2キロメートル弱だというふうに執行部の話がありましたんで、今後建築費も増大して経費がさらに増大するというふうに懸念されます。さらに、この運営開設において経常的運営経費の補填として、市から相当額の支出が予想されることが懸念さ

れています。こうした中で、市民から道の駅の意義や財政負担などについて心配と疑問の声が出ております。

そこで我々、市民から付託を受けた議会としても、道の駅に関わる様々な課題や懸念について検証を行っていき必要な対策を講じるため、道の駅調査特別委員会を設置するっていうことで皆さんに書類を渡しました。

調査事項ですけども、道の駅建設による効果の計量的な測定。要するに、効果的にどのぐらいさせるかっていう数量的に図っていこうということをやっていきたい。それから運営の収支見込み、この財政負担の状況、こういうことですね。3番目として、建設後の運営収支の見込みはどうなのか、これは財政負担がどうなのかという検証ですね。4番目として、開設に伴う市内の直売所の影響はどうなのかということ。5番目に、開設によって教育や福祉など他の行政予算など公共施設の維持管理予算への影響はあるかないかということ。6番目として、道の駅の建設において今度4車線化など、事業に対する財政負担はどうなっていくのかと。7番目として、その他道の駅建設に関すること。

調査期間は6月から1年間を目標としております。

以上です。

委員長 ただいま笹島委員のほうから、道の駅調査特別委員会の設置についての説明がございましたが、ここでご意見、ご質問がございましたらお願ひします。

大和田委員 口火を切っていきたいと思うんですけど、産業建設常任委員会の所管の道の駅というところなので、特別委員会っていうことで、どこまでの範囲の特別委員会を設置するべきかというのは議論のところであると思うんですけども、今日も調査事項が会議事件として上ってると思うんですけども、この内容ですと産業建設常任委員会でまず調査をしっかりと、この内容を客観的な面も含めてできるんではないかと、また調査内容もしっかりと、全員協議会で道の駅に関して議論をしてるでしょうから、しっかりとその産業建設常任委員会として全員協議会にも報告をして、全員協議会でも議員全員に調査内容をしっかりと把握してもらうというのを順繰り順繰りではないですけど行っていく、また産業建設常任委員会に戻して、全議員から集まってきたそういう意見をまた調査に含めていくということで、そして視察をしたり、また特別委員会の話と別なのか分かんないんですけども産業建設常任委員会としてしっかりと深いところまで、多分前回も産業建設常任委員会の調査事項は道の駅だったと思うんですけど、それはどちらかというとやっぱり表を見てこんな道の駅にするとか、道の駅じゃないんだったらこうだとかっていう意見書は提出したので、今度はもっと深部に迫ったようなこういった本当に笹島委員の提案、この収支の見込みとかやっぱり非常に執行部に追随してするような状況ではあるので、しっかりとここで調査できるかと思うんでここで調査していくべきなのじゃないのかなと思います。

以上です。

福田委員 バードラインの4車線化で40億円から60億円っていうのは、全体的な金額がこの金額。

笹島委員 全体的なあれです。

福田委員 これ55%だったか、国庫補助は。そうすると例えば40億円かかる費用で55%は国庫補助で出るわけだろう。そしたらあとの45%は市負担、こういうあれだろ。例えば、道の駅建設が26億円っていうのは国交省あたりから補助出るわけだね。どれぐらい出るのかな。幾らでもない。

議会運営委員会で、はかつてみたらこれ。常任委員会のメンバーからこういう話が出てんだっていうことで、議会運営委員会で揉んでみたら。

委員長 暫時休憩します。

休憩（午前10時23分）

再開（午前10時26分）

委員長 再開いたします。

遠藤委員 笹島委員から特別委員会を設置して道の駅関連の調査してはというふうなご提案を頂いておりますが、我々常任委員会で、そもそも所管ありますから、わざわざこれを特別委員会に設置する必要があるかないかだと思うんですね、まずは。

議会の位置づけ上、特別委員会より我々常任委員会のほうが権限がございますので、まさしくこの設置の趣旨に関してはそのとおりだなど。今まで全員協議会で我々は報告を受けて質疑をしているだけですから。我々の視点から、道の駅ってのはどうか、市民目線でどうなんだ。そういうたとこは我々が逆に主体的に調査ができるのが常任委員会ですから、今までの全員協議会ではなく、調査をするというふうなことに一歩を進めるのであればこのテーマでいいとは思うんです。ただそれをわざわざあえて特別委員会にするか、それとも権限があるこの常任委員会で、今日はこの調査事項について話をしておりますから、ちょっといろんな手続も複雑なところもあるので、せっかく我々の与えられた権限で、常任委員会でしっかりこの道の駅関連を調査すると。調査期間もこのような形で、1年目安ということで集中的にやれるということだと思いますので、この常任委員会で道の駅関係を調査するということは、やっぱりに時宜に合うかなというふうには思いますけれども、いかがでしょう。

委員長 ただいま遠藤委員のほうから、特別調査委員会を設けなくても常任委員会で進めてはいかがかということで意見が出ましたけども、そういった意見でいかがでしょうか。

笹島委員 常任委員会で出でていって、やっぱり執行部が後追い小出し�されていて、それを承認していくっていう形がもうたまらないやになってしまって、これはやっぱり特別的に我々が主体的にやっていかなきゃいけないっていうふうに駆られて、こういうふうにしたんですけども、今言った権限がこちらのほうが上だということであれば、先ほど言ったこの収支、財政とか直売とか、ほかの予算はどうなのかなっていうやっぱり事細かな

数字じゃなくてだったらこちらでいいと思います。

以上です。

福田委員 これ調査事項を見ると、財政負担が主だよね。1番やっぱり心配なのはその辺だと思うんです。それと同時に、単なる道の駅ということで今進めていると思うんですよ。これには反対なんですよ。前から言つてるように、インターチェンジ周辺の開発ということ。インターチェンジ周辺開発という視野の広いことからスタートしていって、単なる道の駅だけに絞られてる。これではインターチェンジ周辺の開発が結びつくのかなと結びつかないだろうと。こういうことを非常に私は懸念している。だから地目が災いしている。それがインターチェンジ周辺の開発に結びつくんだろうと。それが全然今出てきてない。単なる道の駅だけの進め方。これだけなんですよ、先行しちゃったのは。この辺が非常に私は疑問に思った。常磐高速道路が開通して30数年なのかな。何ら代わり映えがない。中身を言えば地目なんですよ。だから地目の見直しということが開発につながるわけですよ。それをやらなければ、単なる道の駅だけでは、調査事項にあるように、近隣の道の駅の運営の収支、これやっぱり心配するのは当たり前だと思う。一、二年は何とかなるでしょう。そのあとが問題なんですよ。それには道の駅が核になる、だけどいつまでも核ではないわけですから、その周りが何とかなんなければちょっと難しい。どうも道の駅だけにこだわっちゃってる。それがどんどんどんどん進められてる。その辺に非常に常任委員会としても不満があるでしょう。皆さんどうなんですか。私はそういうふうに感じてるんですけど。

以上です。

大和田委員 先ほど私も福田委員の意見には同感でして、やはり初めから、インターチェンジ周辺のまちづくりって掲げられてきた経緯と、あと、県の植物園のリニューアルの契機に向けて周辺を開発するんだと、そういう話が入り口だったと思うので、そういうしたものも調査の中に、ただ所管が例えば開発だと政策企画課がどうだとか言われる可能性もなきにしもあらずで、どうなんですか。調査事項の中には入れてもらいたいなと。

次長補佐 大和田委員おっしゃるとおり、総務生活常任委員会に係る部分もあるかと思うので、そこは執行部のほうと調整をしながら考えたいと思います。

副委員長 福田委員のおっしゃること、もっともだと思いまして、そういうことも含めて調査結果の中に委員会としての提案も含めて、提案というか提言ですね、これをこういうふうになるべきである道の駅っていう形、こうすればいいんじゃないかという形を示すための調査があって、その結果こういう形がいいんじゃないかっていう提言も含めて、報告書を出せるような調査事項にできればいいんじゃないかなというふうに思います。

遠藤委員 その話になると、多分、前に去年とかおととしぐらいの段階で、多分最初の執行部の説明でインターチェンジ周辺の開発においては何にしましょうか、流通にしましょうか商業施設にしましょうか何とかっていう、多分議論は多分あったんじゃないですか、

それを、いろんな調査をしたうえで市のほうでは道の駅に決めたみたいな報告が多分議会にされていて、それからそのままこう進んできたような感じなんじゃないですか。そういうのではないんですか。

笹島委員 最初から道の駅ありきであって、その周辺ということは、最初はそうだったんですね、今言った、那珂インターチェンジの開発ということで、道の駅ということは後から先か分からぬんですけども、徐々にその頭角をあらわして出てきちゃったんですね。それで後追いして近隣の周りの再開発ということが、いつの間にか消えてしまったんですね、今続いているのが道の駅が中心になってくるっていう。

福田委員 執行部から打ち出されたのは、那珂インターチェンジ周辺開発っていうことですよ。それが現在進んでるのは単なる道の駅だけ。これだけなんですよ。それだけでインターチェンジ周辺開発に結びつくのかな。

遠藤委員 今のインターチェンジの場所だけじゃなくて、本当にインターチェンジのすぐ北側にも何か流通施設を誘致しようなんて話があるじゃないですか。あれもまさしくインターチェンジ周辺の開発の一部だと思うんですよね。ただそこまで話を元に戻していくとなると、あそこの道の駅を押収の角の道の駅部分と、あとインターチェンジの本当にすぐ北側の流通施設を誘致して、あれが進行状況はどうなのかとか、そういったところを含める少し大きい話に多分なってくるかなとは思うんですが、そうなると多分所管としてはこの我々この常任委員会を多分飛び越えて、ほかの常任委員会と合同でやんなきゃいけないようなところも出てくる可能性はあるかなと思っていて、そこまで広げてやるか、取りあえず我々所管の道の駅だけに絞ってやるかは、ちょっと方向整理したほうがいいんだと思うんですよね。広げてやるとするとまさしく特別委員会になってくるのか、ただいつまでに結論出すかによってだとは思うんですけど、我々もあと1年半ぐらいか、2年はないわけですね。その中でちょっとどう結論づけるかっていう中でいうと、結構、インターチェンジ周辺の幅広い議論をするとなると、相当我々も準備をして詰めていかなきゃいけない感じがするので、どこまで広げてやるかでしょうね。確かに、今これはさっきまで話はこれ道の駅だけのことになっちゃってるんで、そもそもインターチェンジ周辺事態を開発したいという思いは、総論として我々は多分同じだとは思うんですけど、それが本当に道の駅でいいのかどうかっていう議論からもう一度やるとするとかなり幅広の議論にはなっちゃうかなと思うんで、そこらはちょっとどうするかですね。

福田委員 今出た北側っていうこと。それは断念したでしょう。いろいろ、地権者から同意もいただいたけど県のほうへ出したならば、県のほうでは、企業が来る、一緒じゃないと駄目だと断られた。

これはいろんな災いがあるんですよね、過去の。那珂西部工業団地5ヘクタールも今回決まったけど、そういうもろもろの過去のあれがあるんだよね、那珂市の場合は。だからその企業が来るという、それが証明できればいいよと。こういうことなんだろうと

思う。ただ、地目を変えることが全然話がされてない。それでは開発っていうのは不可能ですよ。これできるわけないですよ。地目が駄目なんだから。地目を変えれば立地条件からいったって、そんなに誘致活動なんかよりは企業が来てくれますよ。そういう誘導すること。企業を誘導するのにはどうしたらいいかっていうことが、具体的に今の現状では出てきてない。これは私は一番懸念しますね。

以上です。

笥島委員 現実的に道の駅進み過ぎてますよね。要するに先ほど言ってたその北側のほうの企業誘致っていうことが結局地権者の方に説明会したりなんかしたんですけども、結局企業が一応関心を示したということで、具体策が何もないもんですからぼしやってしまったってことで、地目の話がでましたけども、あそこの地目は公共施設が建てるから、きつい農振地区ですよね。道の駅をつくるから解除すると、道の駅の部分だけですよね。あの地目はそのままでしょう、あれは。農振地区ですよね。だからそれはなかなか県の許可ですよね。

委員長 暫時休憩します。

休憩（午前10時41分）

再開（午前10時50分）

委員長 再開いたします。

それでは本日のテーマでございます調査事項について、最終確認させていただきたいと思います。

当委員会の調査事項につきまして、最終的なテーマを絞ってここでいきたいと思いますんで、最終的なご意見をお願いします。

遠藤委員 本当、我々議会としては今後道の駅どうするかみたいなものは全員協議会でいろいろと、言ってみれば小出しにご報告はいただいてますけど、そもそも那珂インターチェンジ周辺の開発をどうするかっていうのがやっぱ大きな主眼ではあるのは間違いないありません。ただ一方で去年の3月の定例会に基本計画「道の駅」というものが示されていて、いろんな数字も出ていて今後のタイムスケジュールを示されているという中で、我々も一般市民の皆さんのお聞きすれば、これで本当に大丈夫なのかなと、いろんなところがあるので、まず示されているこのデータがどうなんだろうということと、あとほかの道の駅との比較でもどうなんだろうと。確かに県の植物園リニューアルの話もありますが、それに絡めた建設も含めて、実際、収支採算どうなんだろうと、そういったところは、まずこの常任委員会でしっかり議論をして、我々主体的に調査をするという方向で決めればいいんじゃないかなと思いますし、一方でもう少しこう幅広にみたインターチェンジ周辺どうするんだという議論は、我々が調査を進めていく段階で必要に応じて場合によってはほかの常任委員会とも調整をしながらということでいいと思いますが、まず今日はこの2年間我々の常任委員会がどういう方向でやるか、それをしっかりと決

めるという委員会だと思いますので、まずは笹島委員からご提案あったようなこの道の駅に関しての、この文言に関しては正副委員長にお任せをいたしますけれども、おおむねこの趣旨で、我々常任委員会でしっかり調査をするということで今日は決めていければいいのではないかなと思います。

委員長 そのほかございますか。

ただいま遠藤委員のほうからご提案がございました。

当委員会の調査事項は、道の駅についてということでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 文言につきましては、正副委員長のほうにお任せいただくということでお願いします。

それでは本日の案件は全て終了いたしました。

以上で産業建設常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

閉会（午前10時53分）

令和6年6月20日

那珂市議会 産業建設常任委員会委員長 寺門 獻